

暮らし安心Q&A “こんなときどうする”

2008年4月から2009年3月まで、及び2010年4月から2011年3月まで、岩手日報社が企画した「暮らし安心Q&A」のコーナーに、もりおか女性センターが毎月1回執筆し、掲載された記事をニュースレターにてご紹介いたします。

*内容は一般化してあります。

デートDVってなに？

テレビドラマでも取り上げられていた「デートDV」についてもっと詳しく知りたいのですが・・・？

A DV（ドメスティック・バイオレンス）は、親密な関係にある相手に対してふるわれる暴力のことです。DVは大人だけに起こるものではありません。若者の間でも広く起きています。「デートDV」は、交際中の相手や恋人間に起こるDVをいいます。デートDVには次のようなものがあります。

- ① 殴る、ける、腕をひっぱるなどの身体的暴力
- ② 友だちづきあいの制限をする、話しかけても無視する、死ねなどと言う、急に不機嫌になるなどの心理的暴力
- ③ メールをチェックしたりメールアドレスを勝手に消す、返信が遅いと言って、怒りを絵文字で表現して送信するなどメールによる暴力
- ④ 貸したお金を返さない、お金を要求するなどの経済的暴力
- ⑤ 無理やりアダルトビデオを見せたり、セックスを強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力

このように様々な形の暴力があげられます。

ではデートDVはなぜ起こるのでしょうか。それは、交際相手や恋人を自分の思い通りにしたいという目的があるからです。そのためいろいろな暴力を複合的に使います。言い換えれば加害者は、相手を支配するために暴力という方法を選んでいるのです。そしてそれは次第にエスカレートしていきます。

被害当事者は、友人や先輩などまわりの人に相談しても「あなた愛されているのよ!」、「それって自慢話?」と言われてしまうことで、深く傷つきます。そうすると誰にも相談できなくなり、孤立してしまいます。それは加害者の思うツボでもあるのです。

「女は男に守られるもの、従うもの」などの性別役割分担意識は、恋人や交際相手に対する暴力を容認することになります。このような意識は被害当事者にとって、苦しい気持ちや悲しい思いを理解してもらえず、一層心の傷を深くしてしまいます。

愛は拘束することではありません。嫌なことは嫌と言っていいのです、自らを信じて・・・。

「暴力は嫌」という自分の考えを相手に伝え、「嫌」という相手の思いを受け入れ、お互いを尊重し対等な関係を築き上げること、また「男らしさ」「女らしさ」などの性別役割から解放されることがデートDVをなくすことにもつながります。自分のこととしてこれらのことについてじっくり考えてみることもいいかもしれません。



● 女性相談（本館）

相談受付電話 **019-604-3304**

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、一人ひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。

- 相談には電話相談と面接相談があり、予約が必要です。
- 相談は無料です。秘密はかたく守ります。
- 相談開設時間



月・火・金	10:00~17:00	水・木	10:00~20:00
-------	-------------	-----	-------------

（毎月第2火曜日、年末年始、土・日・祝日は休み）

もりおか女性センター

管理・運営：特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて

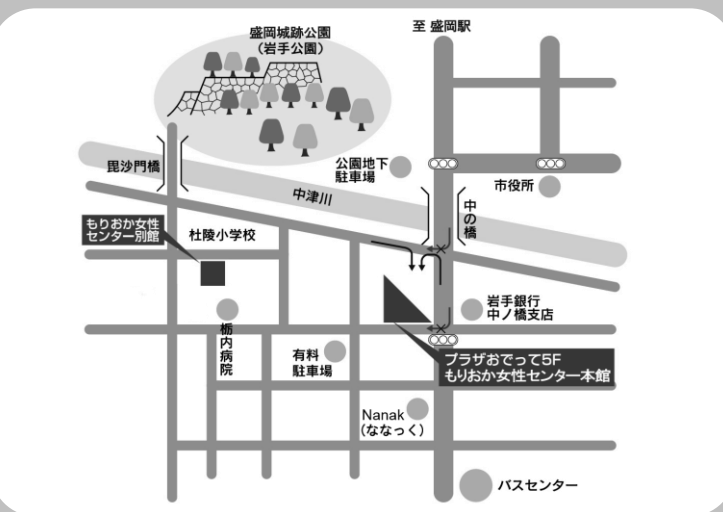
もりおか女性センターは、^{ひとひと}女と男がともに参画する社会をめざして女性をとりまく様々な問題を考え、解決するための施設です。男女を問わず、すべての市民が気軽に利用できます。

■ 本館

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 1-1-10 プラザおでって5階
 電話番号 (019) 604-3303 FAX 050-2013-4750
 開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:30 (土日祝 17:00まで)
 休館日 毎月第2火曜日、年末年始

■ 別館

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町 2-8
 電話番号 (019) 624-3583 (FAX 兼)
 開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:00
 休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始



（バス）
 盛岡駅より茶畑・バスセンター方面行き バスセンター前下車
 本館まで徒歩3分、別館まで徒歩8分

※女性センターには、本館・別館ともに専用の駐車場はありません。
 おでって地下駐車場や近隣の有料駐車場をご利用ください。

ホームページ <http://mjc.sankaku-npo.jp>

あとがき

◆最近の気象状況は、いったいどうなってしまったのか。関東に降った雹(ひょう)や日本のあちこちで起こっている異常気象…以前美しいと眺めた夕焼け空も今は不吉の前兆か？と反応してしまいます。いつ災害が起きても対応できるようしっかりシミュレーションしておかなくてはと自分に言い聞かせているこの頃です。(S)

◆宮城県南三陸町へ初めて行ってきました。岩手県の沿岸部とはまた違った被災地の様子に、現地に行かなければ分からないことがたくさんあると実感しました。シンポジウムでは「被災地問題を風化させず心を寄せてほしい」という言葉が胸に沁みました。(M)

ひとひと
 一女と男、ともに参画する社会をめざして

もりおか女性センター

ニュースレター

2014年7月 No.49

内容

- ◆ 男女共同参画週間「もりおか展 2014」終了報告
- ◆ もりおか展関連図書のご紹介
- ◆ 講座の情報
- ◆ 起業応援ルームからのお知らせ
- ◆ 暮らし安心Q&A “こんなときどうする”



平成26年度事業テーマ
 『学び、つながり、未来を創る～今こそ、Re-start～』

発行：もりおか女性センター

● 事業終了報告

男女共同参画週間「もりおか展 2014」講演会終了

もりおか女性センターでは、国で定めている男女共同参画週間に合わせて6/20(金)～26(木)までの一週間「男女共同参画週間 もりおか展 2014」を開催しました。

今年度は『多様な人々の視点から考える地域防災・復興』をテーマに、第1部では内閣府男女共同参画局総務課地域・防災チームリーダーの土井真知さんによる講演会。第2部では福島・宮城・岩手でそれぞれ活動されている支援3団体によるシンポジウムを開催し、多くの方にご来場いただきました。

講演会は「みんなで考えよう！男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」と題し、土井さんより内閣府調査データ・防災基本方針をもとに女性の参画についてお話をいただきました。



土井 真知さん

国の防災基本計画には、防災における男女共同参画の推進が明記されているにもかかわらず、防災会議のほとんどを男性委員が占めていることを指摘されました。そのため避難所や仮設住宅にいらっしゃる多様な人々が抱える現場の声が、行政機関などに届かない状況にあること。また、女性のメンタルヘルスが男性よりも悪くなっていることなどが調査データから示されました。

女性は災害弱者ではない、意思決定の場に女性がいないことが問題であるとして、防災に関する政策・方針決定の過程に常に30%の女性の参画が必要であることを強く訴えられました。

— 参加者の声 —

- ◎防災・まちづくり(復興)に向けて、女性参画の取組について改めて課題として考えることができました。
- ◎とても良かった。風化させないよう、県内で連携する事が必要。
- ◎被災地3県の支援にあたっている方の生々しいお話が聞けて、深く考える機会になりました。

シンポジウムでは「被災3県における、これまでそしてこれから」をテーマに各団体の活動報告や今後の取組をお聞きしました。

各団体の活動などを報告した後、今後の取組としてNPO法人ウィメンズスペースふくしま代表理事苅米照子さんは、被災者に寄り添うと共に支援者のケアも考えていかなければならないこと、そして被災地問題を風化させず心を寄せてほしいと思いを語りました。



左端：苅米照子さん、中央：草野祐子さん
右端：田端センター長

みやぎジョネット代表の草野祐子さんは、男女共同参画が進んでいる地域は自分たちの活動も進めているが、そうでない地域はどうしても立ち遅れてしまう状況があることを挙げ、災害と男女共同参画は密接な関係にあり、その部分を強めていくことが重要であると話されました。

最後に当センターの田端センター長から、被災地の女性センターが全国の関連施設にどのようにSOSを発信していくか、そのシステムを構築することが大切であると話がありました。

シンポジウムの終わりに、コーディネーターのNPO法人参画プランニング・いわて平賀理事長は「震災後、当団体は全国からいただいた支援金で被災者に必要としているものを調達し、届けることができました。」と話し、そこにネットワークの強さがあること、つながれば次に何かができるのだというメッセージを伝え、今年度のもりおか展の講演会・シンポジウムは終了しました。



- ◆当日大会議室では、講演会開演前後に沿岸5地区の買い物代行の様子を記録した映像「大震災から立ち上がる女性たち～芽でるカーが走る～」を上映しました。
- ◆また、3階ロビーでは「もりおか女性センター防災・震災関連の取組紹介」パネルを展示しました。

「もりおか展 2014」関連図書のご紹介

本館図書コーナーでは、もりおか展 2014 に合わせて、関連図書の展示を行っています。

私たちがとりまく諸問題について、学び、考えるための図書や、もりおか展 2014 のテーマ「多様な人々の視点から考える地域防災・復興」に関連する書籍、資料を集めてご紹介しています。



- ◆土井たかこ社民党党首が辞任した翌年の2004年1月から2012年12月の民主党・野田政権解散までの9年間を女性の視点で論じた時事評論集『時代を視る』～2004～2012～』赤松良子／著

◆老若男女問わず、社会の多様性が活力を生むということをお呼びかけています。

『QUOTA クォータ制の実現を目指す』WIN WIN／編著・赤松良子／著

◆もりおか女性センター主催講座から立ち上がったグループ「エンパワーメント11わて」他、岩手の女性たちの寄稿も掲載されています。

『「復興を取り戻す」～発信する東北の女たち～』大沢真理他／編著

この他にも様々な分野の本をご用意しております。ぜひご利用ください。

● 講座情報

女性のこころとからだ講座「わたしの気持ちをからだで表現してみよう」

気軽にみんなで楽しく自分の気持ちをからだで表現してみませんか？誰にでもできる遊び心いっぱいの講座です！

- 内 容：コミュニケーションワークショップ
- ① 遊ぼう・からだを動かそう・大きな声を出してみよう！
 - ② みんなで一緒に表現しよう。何が見えてくるんだろう！
- 日 時：8/19(火)、26(火) 13:00～16:00
 対象・定員：女性・15人 ※2回出席できる方を優先
 会 場：プラザおでって(4Fリハーサル室)
 受 講 料：無料
 申込方法：7/23(水) 10:00から
 ☎ 624-3583 にて先着順に受付
 ＊託児あり 有料(6ヶ月以上の未就学児 1人1回500円) 先着5人

《講座予告》

■男性のメンタルヘルズ講座(仮)
・9/10(水)、17日(水) 19:00～20:30(連続2回)開催予定
ストレスの対処法などについて学びます。

■みんなのおしゃべりルーム～言葉にしよう自分の気持ち～(仮)
・9月(連続5回)開催予定
少人数で開催します。自分の気持ちをうまく表現できない、話すことが苦手という方も安心してご参加ください。

※詳しくは、チラシや広報もりおか、または女性センターホームページでご確認ください。

● 起業応援ルームからのお知らせ

■ ネットショップ開店準備講座

岩手を中心とした東北の逸品をお届けする「まがりや.net」を運営している㈱ホップスの工藤昌代さんを講師にお迎えし、ネットショップを立ち上げるための基礎知識をじっくり学びます。

日時：8/23(土)、30(土) 10:30～15:30
会場：女性センター別館
対象：ネットショップに興味がある女性 20人 ＊託児あり

■ 女性起業芽でる塾 in 盛岡 実践編

起業の基礎知識を知り、具体的な一歩を踏み出す行動計画を作ります。先輩起業家のお話は、「女子100人委員会」株式会社のひあ 高橋真樹さんです。

日時：9/6(土)、7(日) 13:00～16:30
会場：女性センター別館
対象：起業を考えている女性 15人 ＊託児あり
※内容、申込方法など詳しくはチラシやホームページでご確認ください。

＜起業に関する申込み・問い合わせ＞

起業応援ルーム 芽でるネット ☎ 019-624-3583

URL <http://www.sankaku-npo.jp/mederunet/>

※最新情報はこちらから！



